

1. 統計的な調査による調査及び分析

1) 既存の統計データの活用検討

調査の範囲と方法

- 各省庁が公表している下表の「調査・統計」を本事業の調査対象として、流通実態の把握可能性を調査した。
- 全「調査・統計」の概要を確認後、流通金額が把握可能な「調査・統計」の絞り込みを行い、その中に含まれる詳細な統計データについて特性整理を行い、調査対象部門・品目及び流通実態の取りまとめを行った。(調査の際、推計・加工を主体とする産業連関表及びそれに関連する統計データは調査の対象外とした。)

各省庁の調査・統計											
農林水産省 調査・統計(alic、水産庁含む)			41	集落営農実態調査		82	生鮮食料品価格・販売動向調査	-	123	農林漁業及び関連産業を中心とした産業連関表	
1	インスタントコーヒー生産実績調査	-	42	消費地水産物流通調査	-	83	ソース類生産実績調査	-	124	農林漁業体験学習の取組(教育ファーム)実態調査	
2	営農類型別経営統計		43	食貯生産実績		84	たい肥等特殊肥料の生産・出荷状況調査	-	125	農林水産関係試験研究機関基礎調査	
3	エキス生産実績調査		44	食鳥市況情報[外部リンク]		85	チーズの需給表		126	農林水産物輸出入統計	○
4	園芸施設共済統計表		45	食肉卸売市場調査(日別)牛・豚[外部リンク]	○	86	地域特産野菜の生産状況調査		127	畑作物共済統計表	
5	園芸用施設及び農業用廃プラスチックに関する調査		46	食品産業活動実態調査	-	87	畜産統計調査		128	被害調査	
6	外食産業に関する基本調査	-	47	食品産業企業設備投資動向調査		88	畜産物生産費統計		129	品目別経営統計	
7	海面漁業生産統計調査		48	食品産業動向調査	-	89	畜産物の旬別卸売数量・価格動向		130	米穀の流通・消費等動態調査	-
8	花き卸売市場調査	-	49	食品循環資源の再生利用等実態調査		90	畜産物流通調査		131	米麦加工食品生産動態等統計調査	-
9	花き流通・消費動向調査	-	50	食品製造業におけるHACCPに沿った衛生管理の導入状況実態調査		91	中山間地域等直接支払制度の実施状況		132	蘭生産統計調査	-
10	加工食品流通動態調査		51	食品流通構造調査	-	92	チョコレート・ココア生産実績調査	-	133	面積調査	
11	果樹共済統計表		52	食品流通段階別価格形成調査		93	伝統食を含む食文化の継承及び地域産物の活用への取組状況	-	134	木材価格統計調査	
12	家畜共済統計表		53	食品流通段階別価格形成追跡調査	-	94	特産果樹生産動態等調査		135	木材需給表	
13	花木等生産状況調査		54	食品ロス統計調査(世帯調査・外食産業調査)		95	特産農作物生産実績調査	-	136	木材統計調査	
14	からし粉類生産実績調査	-	55	食料需給表		96	特定作物統計調査		137	木材流通構造調査	
15	カレー生産実績調査	-	56	食糧統計年報	-	97	特用林産物生産統計調査		138	木材流通統計調査	
16	環境保全型農業推進農家の経営分析調査	-	57	食料品生産実態調査	-	98	都市と農山漁村の共生・対流への取組状況		139	木質バイオマスエネルギー利用動向調査	
17	牛乳乳製品統計調査		58	飼料需給表		99	土壌改良資材の農業用払出量調査		140	木質バイオマス利用実態調査	
18	牛乳乳製品の生産動向		59	新規就農者就業状態調査	-	100	土地管理情報収集分析調査	-	141	野生鳥獣資源利用実態調査	
19	漁業経営統計調査		60	新規就農者調査		101	と畜場統計調査(日別)[外部リンク]		142	遊漁採捕量調査	-
20	漁業産出額	○	61	森林組合一斉調査		102	都道府県知事認可の漁業協同組合の職員に関する一斉調査		143	油糧生産実績調査	
21	漁業構造動態調査		62	森林国営保険事業統計		103	内水面漁業生産統計調査		144	容器包装利用・製造等実態調査	
22	漁業センサス		63	森林資源の現況		104	なたね、そば等生産費調査		145	緑化樹木の生産状況調査	-
23	鶏卵市況情報[外部リンク]		64	森林づくり活動についての実態調査		105	認定農業者数(農業経営改善計画の畜産類型別等の認定状況)		146	林業経営統計調査	
24	香辛料生産実績調査	-	65	森林病虫害被害量		106	農業・食料関連産業の経済計算		147	林業経営の動向に関する調査	-
25	コーヒー豆在庫実績調査	-	66	水産加工業経営実態調査		107	農業協同組合及び同連合会一斉調査	○	148	林業産出額	
26	国有林野事業統計		67	水産加工統計調査		108	農業協同組合等現在数統計		149	林業組織経営体経営調査	-
27	作物統計		68	水産業協同組合統計表		109	農業経営統計調査		150	冷蔵水産物在庫量調査	
28	作況調査(果樹)		69	水産業協同組合年次報告		110	農業構造動態調査		151	6次産業化総合調査	○
29	作況調査(水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工業農作物)		70	水産物流通調査	○	111	農業資源調査	-	経済産業省 調査・統計		
30	作況調査(花き)		71	スープ類生産実績調査	-	112	農業組織経営体経営調査	-	152	工業統計調査	○
31	作況調査(野菜)		72	青果物卸売市場調査	○	113	農業農村地域資源・環境総合調査	-	153	経済構造実態調査	○
32	畜業に関する調査	-	73	青果物卸売市場調査(旬別結果)		114	農業物価統計調査		154	商業動態統計調査	○
33	産業連関構造調査		74	青果物卸売市場調査(日別調査)[外部リンク]		115	農作物共済統計表		155	電子商取引実態調査	○
34	畜糸業需給・価格動向調査	-	75	青果物卸売市場調査(旬別卸売数量・価格動向)[外部リンク]		116	農産物生産費統計		総務省 調査・統計		
35	産地水産物流通調査		76	青果物市況情報[外部リンク]		117	農産物地産地消等実態調査	-	156	家計調査	○
36	飼育動物診療施設の開設届出状況		77	青果物・花き集出荷機構造調査	-	118	農地の権利移動・借賃等調査		157	家計消費状況調査	○
37	持続性の高い農業生産方式への取組状況調査	-	78	生鮮野菜価格動向調査	-	119	農道・林道整備状況調査		158	全国家計構造調査	○
38	市町村別農業産出額(推計)		79	生産者の米穀在庫等調査		120	農道整備状況調査		財務省 調査・統計		
39	獣医師の届出状況		80	生産農業所得統計	○	121	農林家経営動向調査	-	159	貿易統計	○
40	集落営農活動実態調査	-	81	生鮮食品流通動態調査	-	122	農林業センサス				

※「○」は本調査の結果、流通金額の把握が可能な統計・調査、「-」は2022年5月時点で既に調査や公表が終了した統計・調査

既存統計の概略とデータの把握可能性について

- 前ページで絞り込みを行った統計について、データの項目・粒度、部門・品目の把握の可否等について下表に整理した。

所管部局	番号	統計名称	概略	データの項目・粒度	調査対象部門・品目の把握可否
農林水産省	1-1	青果物卸売市場調査	全国の青果物卸売市場における青果物卸売会社の卸売数量と価格を把握できる	- 青果卸売市場で取引される野菜 約50品目・品種、果実 約44品目・品種の卸売数量・価格の把握が可能 - 野菜・果実の過去の取扱数量の記載があり、市場流通と市場外流通の変化も把握可能	- 調査対象部門については、青果のみ卸売数量と卸売価格の把握が可能 - 調査対象品目では葉茎菜類に属するキャベツの卸売数量と卸売価格の把握が可能
	1-2	生産農業所得統計	農業総産出額及び各農産物の産出額を把握できる	- 耕種、畜産、農産加工の分類で農業産出額を把握でき、更に耕種は米、雑穀、野菜、果実等、畜産は肉用牛、乳用牛の区分で農業産出額を把握可能 - 項目を加工して集計することで青果、穀物の農業産出額の把握も可能	- 調査対象部門については青果、穀物、畜産の3部門についての産出額の把握が可能 - 品目は米、牛肉に加え、分析指標データの「主要農産物の産出額と構成割合」を組み合わせることでキャベツ、大豆についても産出額の把握が可能
	1-3	農業協同組合及び同連合会一斉調査	総合農協、専門農協、農業協同組合連合会の事業部門別の取扱高の把握が可能	- 総合農協、専門農協、農業協同組合連合会それぞれの販売事業と加工事業の取扱高の把握が可能 米、麦など品目で把握可能な項目と、野菜、果実等の部門で把握可能な項目が混在	- 調査対象部門については青果、穀物、畜産の3部門について販売事業と加工事業の取扱高の把握が可能。 - 品目については、米と牛肉の販売事業の取扱高の把握が可能

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

既存統計の概略とデータの把握可能性について

所管部局	番号	統計名称	概略	データの項目・粒度	調査対象部門・品目の把握可否
農林水産省 (続き)	1-4	農林水産物輸出入統計	農林水産物の輸出入の数量及び金額の把握が可能	- 財務省貿易統計の統計品目に基づく農林水産物の輸出入数量と価格の把握が可能。 - 数量と金額に関する対前年増減率を見ることで、品目別の輸出入増減も把握可能	- 調査対象部門については青果、穀物、畜産、水産の4部門について輸出入金額の把握が可能 - 品目については、キャベツ、米、牛肉、マグロ、大豆の輸出入金額が把握可能
	1-5	6次産業化総合調査	農業経営体と漁業経営体の6次産業化及び農産物・水産物の直接販売の実態を把握できる	- 農業経営体と漁業経営体の加工、直売所、観光農園、民宿、レストランの6次産業化の実態把握が可能 - 上記の内、農産・水産加工、農産物・水産物直売所の販売については、ある程度の品目の把握も可能	- 調査対象部門については青果、穀物、畜産、水産の4部門について農業経営体と漁業経営体の6次産業化の販売額の把握が可能 - 品目については、米についてのみ農産物直売所での販売金額を把握可能
	1-6	食肉卸売市場調査	食肉卸売市場の取引総金額の把握が可能	- 各食肉卸売市場のデータを整理するものであり、統計法上の統計調査には該当しない - 枝肉の取引総価額を生産量と比較することで、市場経由率を把握することもできる	- 調査対象部門については、畜産部門について取扱金額の把握が可能 - 品目については、牛肉(成牛計)の取扱金額が把握可能

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

既存統計の概略とデータの把握可能性について

所管部局	番号	統計名称	概略	データの項目・粒度	調査対象部門・品目の把握可否
農畜産業振興機構	2-1	畜産物の需給関係の諸統計	畜産物の輸出額を把握できる	畜産物の種類ごとの輸出額を、主要相手国の情報と共に、年次合計額を把握することが可能	- 調査対象部門については、畜産部門について輸出金額の把握が可能 - 品目については、牛肉の輸出金額の把握が可能
水産庁	3-1	漁業産出額	漁業の産出額を把握できる	漁業の産出額を、主要魚種別で把握することが可能	- 調査対象部門については、水産部門について漁業算出額の把握が可能 - 品目については、マグロの産出額の把握が可能
	3-2	産地水産物流通調査	産地卸売市場に流通した取引量の、水揚げ額を把握できる	上場水揚げ額を、主要魚種別で把握することが可能	- 調査対象部門については、水産部門について上場水揚げ額の把握が可能 - 品目については、マグロの上場水揚げ額の把握が可能
経済産業省	4-1	経済構造実態調査	国内産業の経済活動状況を把握できる	- 日本標準産業分類の小分類に属する産業の売上(収入)金額や年間商品販売額(卸売販売額)の把握が可能 - 年間商品販売額については、内数として業者販売の卸売販売額、個人・家庭販売の小売販売額も記載	- 調査対象部門で見た場合、食料品製造業、飲食料品卸売業、飲食料品小売業における青果、畜産、水産の3部門の販売額の把握が可能 - 品目については、飲食料品卸売業の米穀類卸売業として米の販売額を把握できる

既存統計の概略とデータの把握可能性について

所管部局	番号	統計名称	概略	データの項目・粒度	調査対象部門・品目の把握可否
経済産業省 (続き)	4-2	工業統計調査	国内産業の経済活動状況を把握できる	産業別統計表では日本標準産業分類の細分類に属する産業別の製造品出荷額等が、品目別統計表では経済産業省が独自に区分した品目別の出荷金額が把握できる	- 調査対象部門で見た場合、畜産、水産、青果の3部門の製造業の出荷額の把握が可能 - 品目では水産缶詰・瓶詰製造業におけるまぐろ缶詰(マグロ加工)の出荷額、精米・精麦業における精米(米)の出荷額を把握できる
	4-3	商業動態統計調査	全国の商業を営む企業の事業活動の実態を把握できる	商業動態統計業種分類に基づく産業別の販売額が把握できる	商業動態統計調査は商業動態統計業種分類に基づく業種別の販売額の統計であるため、調査対象部門及び品目での実態把握はできない
	4-4	電子商取引実態調査	電子商取引(BtoC-EC)の利活用動向が把握できる	物販系、サービス系、デジタル系3分野におけるBtoC-EC市場規模を把握できる	電子商取引実態調査で示されているカテゴリーでは、調査対象部門及び品目のBtoC-EC市場規模は把握できない

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

既存統計の概略とデータの把握可能性について

所管部局	番号	統計名称	概略	データの項目・粒度	調査対象部門・品目の把握可否
総務省	5-1	家計調査	一世帯当たりの品目別支出が把握できる	一世帯当たりの、品目別支出が把握できる	家計調査が示している数値では、消費の市場規模全体を把握できない
	5-2	家計消費状況調査	インターネットを利用した、世帯当たりの月間支出が把握できる	品目分類が他の統計と異っており、詳細な品目別データが把握できない	家計消費状況調査が示している数値では、品目の情報が足りず、消費の市場規模全体を把握できない
	5-3	全国家計構造調査	一世帯当たりの購入先別月間支出が、把握できる	- 品目分類が部門となっており一定のデータが取得できるが、詳細な品目別データが把握できない - 消費支出金額は、一世帯当たりの月間平均額であり、全体的な市場規模を把握することが困難	全国家計構造調査が示している数値は、月間平均額であり、且つ品目の情報が足りず、消費の市場規模全体を把握できない
財務省	6-1	貿易統計	日本の輸出入に関し、品目別や貿易相手国別に金額と数量が把握できる	(内容や数値は、農林水産物輸出入統計と同一と確認できたため、記載は省略)	(内容や数値は、農林水産物輸出入統計と同一と確認できたため、記載は省略)

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

調査対象部門・品目の統計値について

- 絞り込みを行った統計について、その統計から得られる調査対象品目及び部門に関する具体的な統計値について以下の表に整理した。
- なお、掲載している統計値は、2022年6月時点で公表されている最新値である。

所管部局	番号	統計名称	調査対象部門・品目の統計値
農林水産省	1-1	青果物卸売市場調査	● 調査対象部門の青果の卸売価格の合計は、2019年は29,960億円、2020年は30,644億円 ● その内、キャベツの卸売価格は2019年は1,013億円、2020年は1,148億円
	1-2	生産農業所得統計	● 調査対象部門の2020年の産出額は、穀物は20,479億円、青果は21,261億円、畜産は32,372億円 ● 品目別の算出額では米は16,431億円、大豆は405億円、キャベツは1,044億円、牛肉(肉用牛)は7,385億円
	1-3	農業協同組合及び同連合会一斉調査	● 調査対象部門である農業協同組合の穀物の加工事業のトータルの取扱高は523億円、青果は101億円、畜産は891億円 ● 加工事業においては品目の取扱高を把握することはできない
	1-4	農林水産物輸出入統計	● 2021年で見した場合、調査対象部門である穀物の輸出額は69億円、青果は569億円、畜産は1,139億円、水産は3,015億円 ● 品目別では米の輸出額は69億円、キャベツは3億円、牛肉は536億円、マグロは149億円(加工含む)、大豆は1億円 ● 2021年で見した場合、調査対象部門である穀物の輸入額は8,262億円、青果は10,342億円、畜産は19,613億円 ● 品目別では米の輸入額は570億円、キャベツは6億円、牛肉は4,078億円、マグロは1,992億円(加工含む)、大豆は2,277億円

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

調査対象部門・品目の統計値について

所管部局	番号	統計名称	調査対象部門・品目の統計値
農林水産省 (続き)	1-5	6次産業化総合調査	- 農業経営体の農産加工の販売額は3,669億円、農産物直売所は1,754億円、観光農園は359億円、農家民宿は54億円、農家レストランは271億円 - 調査対象部門で見た場合は、青果、穀物、畜産の3部門の把握が可能で、その販売額は農産加工と農産物直売所のトータルで青果は1,470億円、穀物は83億円、畜産は1,050億円 - 品目別では農産物直売所において米の販売額が82億円 - 農業経営体の農産加工における加工原料の仕入額の合計は1,627億円 - 仕入額を調査対象部門別に見た場合、青果と畜産の2部門の把握が可能で、青果の仕入額は453億円、畜産は601億円 - 品目では米のみ把握が可能で、米の農産加工の加工原料仕入額は82億円 - 経営体の水産加工の販売額は747億円、水産物直売所は104億円、漁家民宿は66億円、漁家レストランは84億円 - 調査対象部門で見た場合は水産は上記の合計で1,002億円と把握できるが、品目の把握はできない
	1-6	食肉卸売市場調査	調査対象部門である畜産物の枝肉の取引総価額は3,800億円、そのうち品目としての成牛は3,038億円
農畜産業振興機構	2-1	畜産物の需給関係の諸統計	- 調査対象部門である畜産の輸出額は525億円 - 品目では牛肉の輸出額は281億円
水産庁	3-1	漁業産出額	- 調査対象部門である水産の漁業産出額は14,684億円 - 品目では、マグロの海面漁業産出額は1,293億円 - 品目では、マグロの海面養殖業産出額は506億円
	3-2	産地水産物流通調査	- 調査対象部門である水産の産地水揚価額は5,774億円 - 品目では、マグロの産地水揚価額は853億円

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討

調査対象部門・品目の統計値について

所管部局	番号	統計名称	調査対象部門・品目の統計値
経済産業省	4-1	経済構造実態調査	・ 飲食料品卸売業で調査対象部門を見た場合、穀物の売上(収入)金額は77,698億円、青果は102,532億円、畜産は56,709億円、水産は82,076億円 ・ その内、品目で把握が可能な米の売上(収入)金額は77,698億円
	4-2	工業統計調査	・ 工業統計調査の品目別統計表で調査対象部門を見た場合、畜産(畜産食料品製造業)の出荷金額は62,821億円、水産(水産食料品製造業)は29,607億円、青果(野菜缶詰・果実缶詰、農産保存食料品製造業)は7,725億円 ・ 品目ではマグロは207億円、米は7,713億円
	4-3	商業動態統計調査	・ 商業動態統計調査では農畜産物・水産物卸売業、食料・飲料卸売業、飲食料品小売業の出荷額は把握できるが、調査対象部門及び品目における出荷額は把握できない ・ ただし、55～57頁で示している通り、百貨店・スーパー、コンビニエンスストア、ドラッグストアにおける飲食料品の出荷額を把握できる
	4-4	電子商取引実態調査	・ 調査対象部門及び品目でのBtoC-EC市場規模の市場規模の把握はできないが、「食品、飲食、酒類」、「飲食サービス」、「フードデリバリーサービス」の 카테고리では把握が可能で、各市場規模はそれぞれ22,086億円、5,975億円、3,487億円
総務省	5-1	家計調査	・ 家計調査が示している数値では、消費の市場規模全体を把握できないが、品目別の平均支出金額を把握することができる
	5-2	家計消費状況調査	・ 家計消費状況調査が示している数値では、インターネットを利用した消費の市場規模全体を把握できず、品目についても詳細な把握が困難
	5-3	全国家計構造調査	・ 全国家計構造調査が示している数値では、月間平均額であり、且つ品目の情報が足りず、消費の市場規模全体を把握できない
財務省	6-1	貿易統計	(内容や数値は、農林水産物輸出入統計と同一と確認できたため、記載は省略)

既存統計で把握できる流通金額の点と線のまとめ

■ 取り纏め方法

- 前ページまでに整理した統計値をもとに、本調査によって明らかになった流通構造を把握できる統計の事業体及び産業をプロットし、部門・品目毎に流通金額を記載した資料を作成。
- その際、既存統計データでは、品目までの詳細な流通金額の把握が困難な統計もあるため、各流通金額には大項目、部門、品目を設定(必要に応じて「分類」を設定)し、調査対象品目が流通上、どの段階まで把握できるかを示した。また、1つの流通金額に対して複数の統計データが存在する場合は、汎用性・網羅性の高い統計データの数値を優先し、流通金額として記載した。(記載した流通金額の数値は、各統計データで共通して把握できる2019年の数値(単位は億円)を使用)。
- 総括として、本件調査の結果を一般的な流通構造の中に示し、既存統計で把握できるものとそうでないものを明確にした。

■ 検証の結果

- 流通構造上の流れ(各事業体・産業間同士の取引)を既存統計で把握することは困難。(一部把握可能)
- 各事業体・産業の売上については、売上高や出荷額など統計毎に定義が異なるため、流通構造全体の整合性が把握しづらい。
- 品目別の流通金額の把握については、川上から川中・川下へと流通が進むにつれて、把握が困難になる。
- 特に、対象品目が加工品に変化した場合、加工品の原材料を示す統計データはほとんどないため、対象品目を使った加工品や加工品に使用される対象品目の流通状況を把握することは困難。

■ 今後の課題

- 本検証結果を踏まえた流通実態の把握・推計方法の検討。
- 加工品の把握・推計方法の検討。
- 飲食料品製造業及び小売における各種製品の在庫量の把握・推計方法の検討。(サプライチェーン上にアクシデントが発生した場合のインパクトを推計する際に、各種流通段階での製品の在庫量は重要な要素となる。)

1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討 部門・青果、品目・キャベツの流通実態

既存統計で把握できるキャベツの流通金額の点と線

農産物輸入額
65,945.6 [1-4-2]
青果（その他調整品含む）
10,366.3 [1-4-2]
キャベツ（芽キャベツ除く）
12.4 [1-4-2]

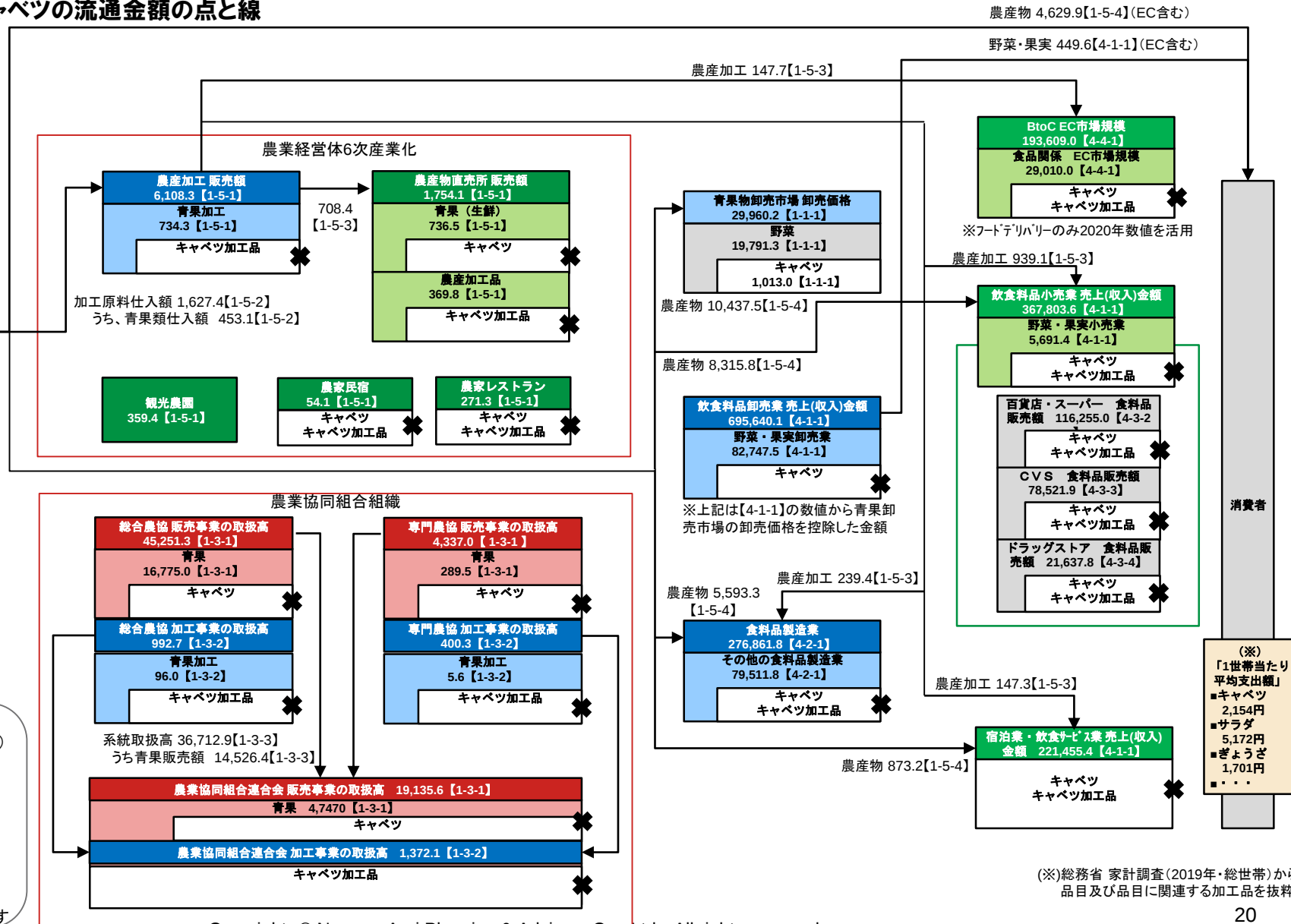
農産物総産出額
88,938.0 [1-2-1]
青果
29,914.0 [1-2-1]
キャベツ
913.0 [1-2-1]

農産物輸出額
5,877.5 [1-4-1]
青果（その他調整品含む）
445.0 [1-4-1]
キャベツ（芽キャベツ除く）
1.6 [1-4-1]

- 流通金額
各種統計の2019年（又は2019年度）の数値（単位：億円）
- 凡例

川上項目	川中項目	川下項目
部門	部門	部門
分類	分類	分類
品目	品目	品目

- ✖ は記載の品目項目レベルではデータの把握ができないことを示す



1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討 部門・穀物、品目・米の流通実態

既存統計で把握できる米の流通金額の点と線

農産物輸入額
65,945.6 [1-4-2]
穀物
6,513.8 [1-4-2]
米
533.8 [1-4-2]

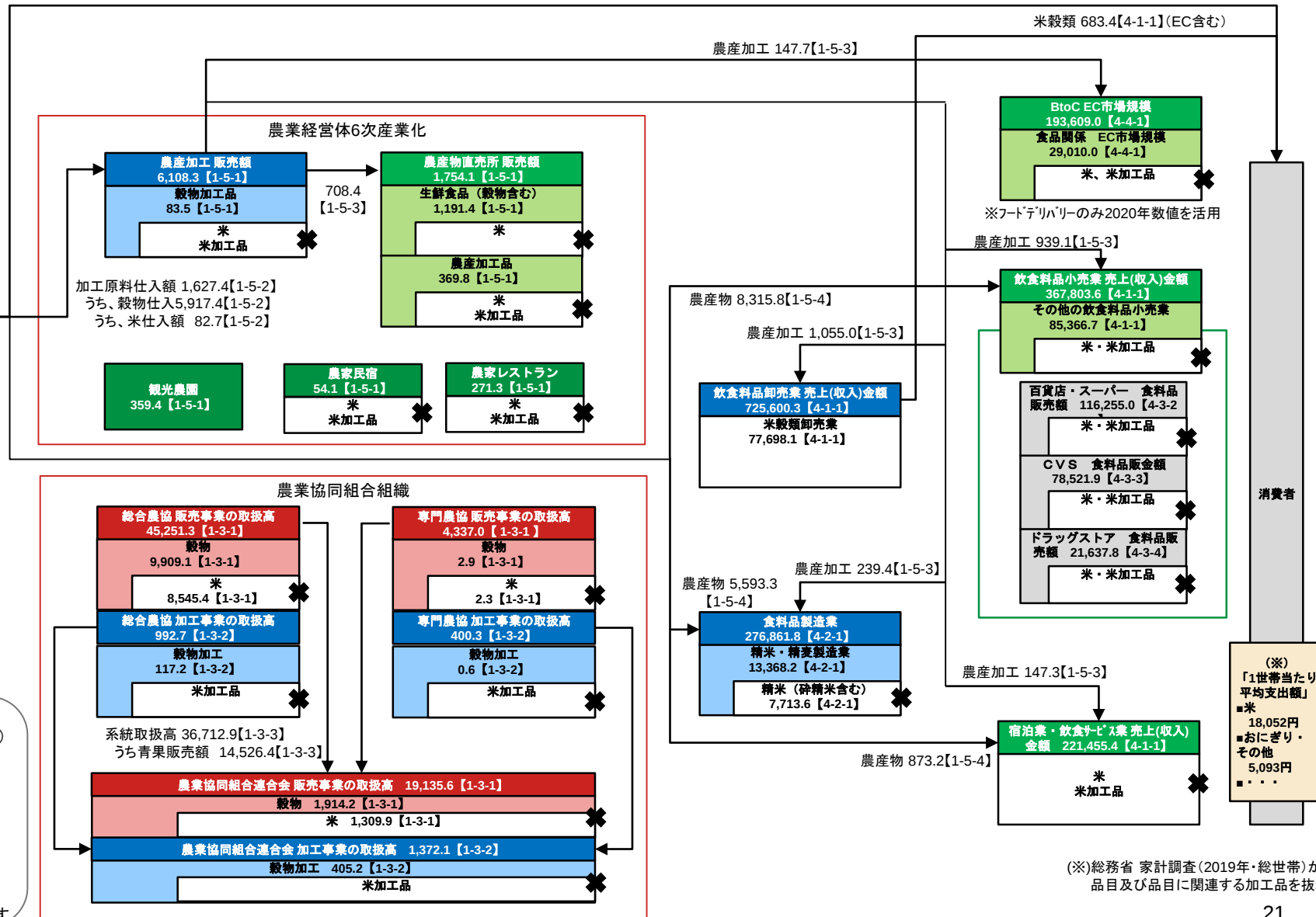
農産物総産出額
88,938.0 [1-2-1]
穀物
21,170.0 [1-2-1]
米
17,426.0 [1-2-1]

農産物輸出額
5,877.5 [1-4-1]
穀物
60.9 [1-4-1]
米
60.6 [1-4-1]

- 流通金額
各種統計の2019年(又は2019年度)
の数値(単位:億円)
- 凡例

川上項目	川中項目	川下項目
部門	部門	部門
分類	分類	分類
品目	品目	品目

- ✖ は記載の品目項目レベルでは
データの把握ができないことを示す



1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討 部門・畜産、品目・牛肉の流通実態

既存統計で把握できる牛肉の流通金額の点と線

農産物輸入額 65,945.6【1-4-2】
畜産品 19,531.4【1-4-2】
牛（生きているもの） 45.7【1-4-2】
牛肉（くず肉含む） 3,851.2【1-4-2】

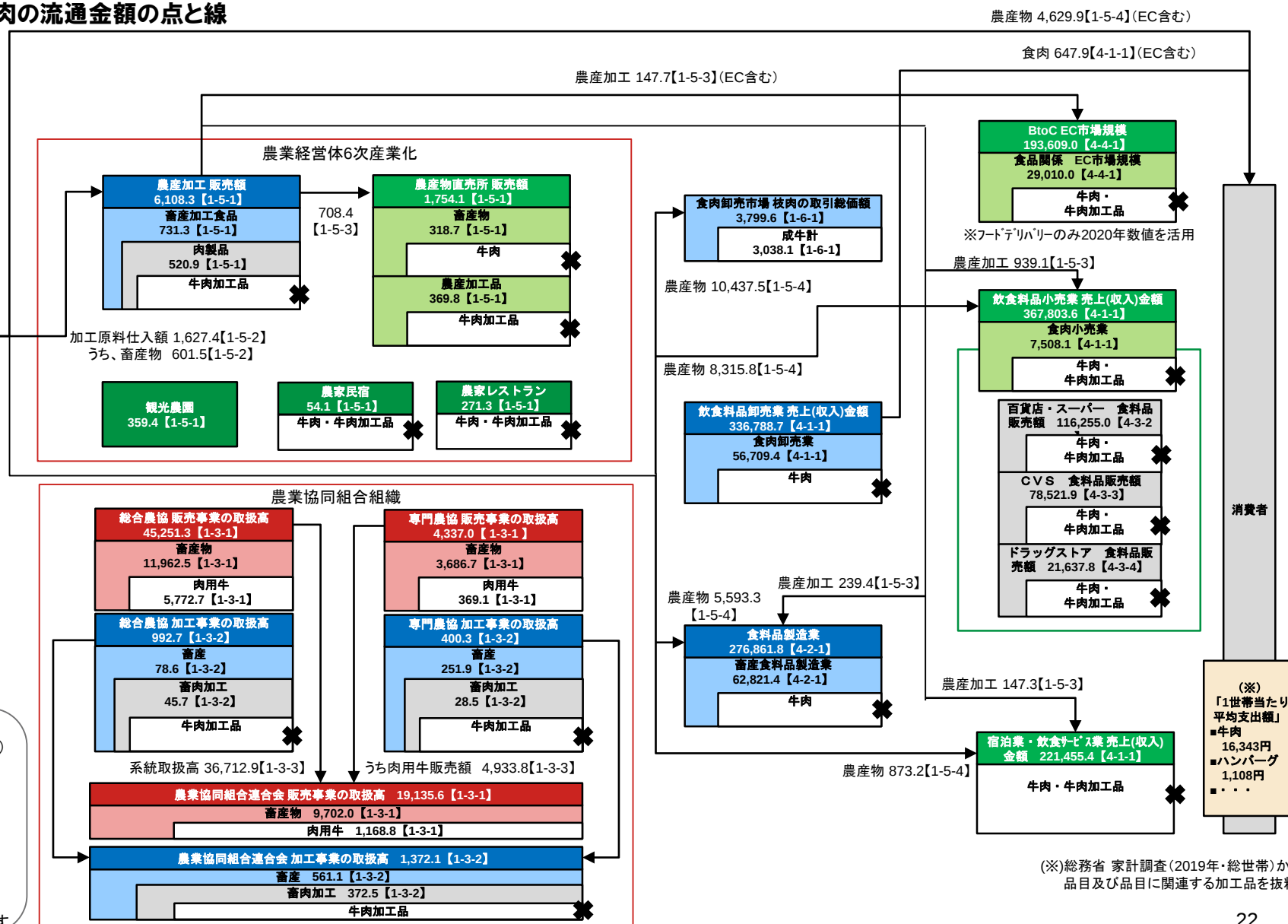
農産物輸出額 88,938.0【1-2-1】
畜産 32,107.0【1-2-1】
肉用牛 7,880.0【1-2-1】

農産物輸出額 5,877.5【1-4-1】
畜産品 707.8【1-4-1】
牛肉（くず肉含む） 296.7【1-4-1】

- 流通金額
各種統計の2019年（又は2019年度）の数値（単位：億円）
- 凡例

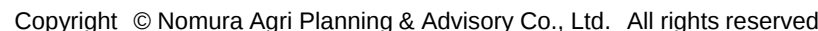
川上項目	川中項目	川下項目
部門	部門	部門
分類	分類	分類
品目	品目	品目

- ✖ は記載の品目項目レベルではデータの把握ができないことを示す



NOMURA

水産物 389.5【1-5-9】(EC含む)



1. 統計的な調査による調査及び分析 1)既存の統計データの活用検討 部門・穀物、品目・大豆及び豆腐の流通実態

既存統計で把握できる大豆及び豆腐の流通金額の点と線

農産物輸入額 65,945.6 [1-4-2]
野菜・その他調製品 5,012.8 [1-4-2]
大豆 1,673.2 [1-4-2]

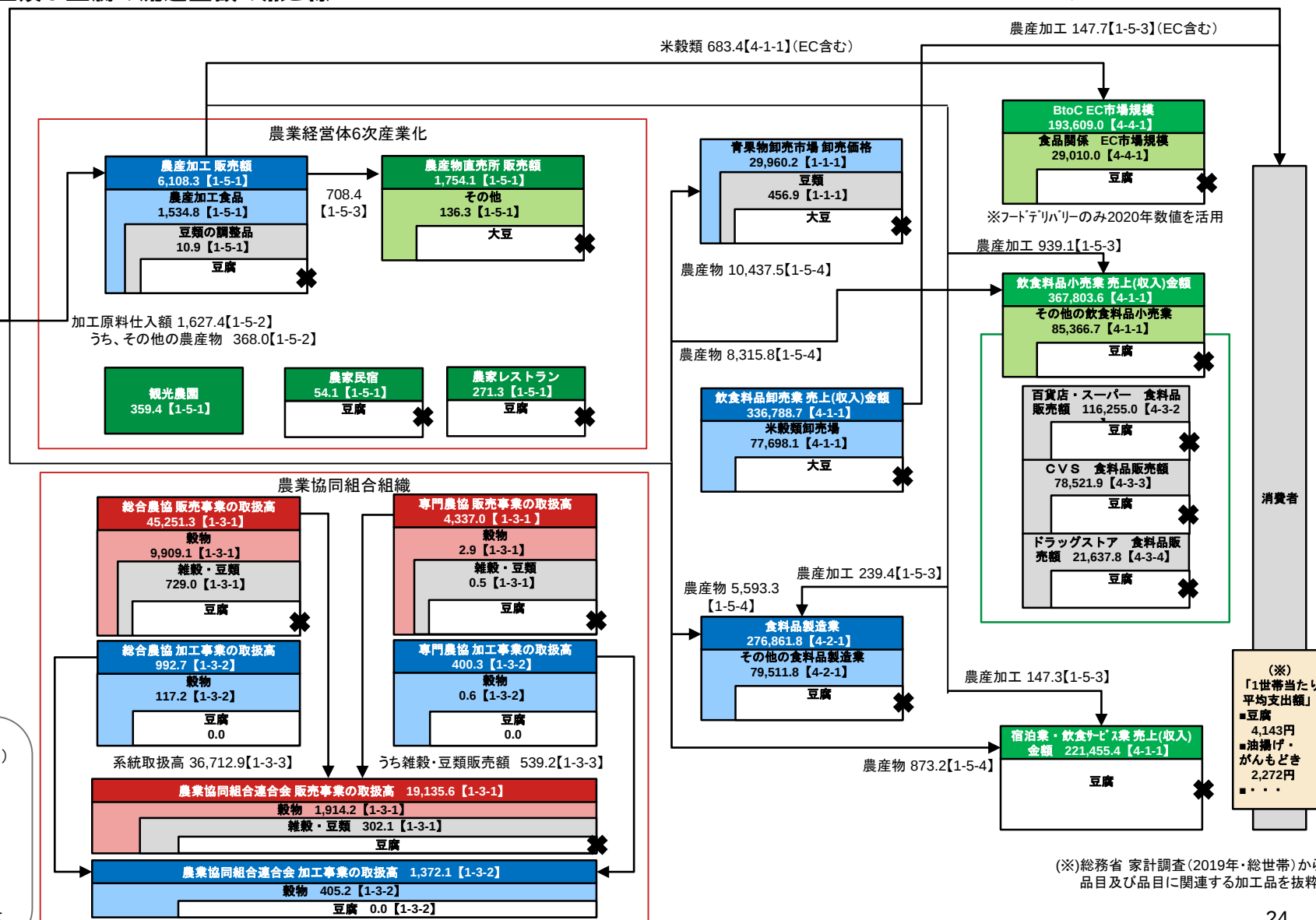
農産物輸出額 88,938.0 [1-2-1]
穀物 21,170.0 [1-2-1]
大豆 361.0 [1-2-1]

農産物輸出額 5,877.5 [1-4-1]
野菜・その他調製品 110.4 [1-4-1]
大豆 1.0 [1-4-1]

- 流通金額
各種統計の2019年(又は2019年度)
の数値(単位:億円)
- 凡例

川上項目	川中項目	川下項目
部門	部門	部門
分類	分類	分類
品目	品目	品目

- ✖は記載の品目項目レベルでは
データの把握ができないことを示す



(※)総務省 家計調査(2019年・総世帯)から
品目及び品目に関連する加工品を抜粋